

講義コード	1480330000
講義名称	労働法B　＜秋＞
科目英文名	Labor Law B
代表ナンバリングコード	0LAW3460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
楠本　敏之

授業形態	講義 実務経験のある教員による授業① 『実務経験のある教員による授業（元弁護士が、専門分野における実務経験で涵養された知見をも活用して講義する）』
------	---

講義・演習概要	近年、テレビ・新聞などの報道で、しばしば「非正規雇用問題」「長時間労働」など多くの労働問題が議論され、その解決の必要性が叫ばれています。実際、日本の労働現場では、非正規雇用、長時間労働をはじめとして、セクハラ、パワハラ、ワーク・ライフ・バランス、時間外労働規制、過労死・過労自殺など多くの解決すべき問題があります。本講義では、そのような問題に対処するための手段としての現在の労働法についてわかりやすく解説するとともに、現在においても未解決の様々な問題を解決するために何を改善するべきなのかを考えることができるようにします。
学習（到達）目標	労働法 A で労働契約に関する諸規定や賃金に関する規制などを取り扱いますが、その継続として、労働時間規制をはじめとする労働者保護のための諸規制や労使関係法などの法制度について解説していきます。労働法の全体像を体系的に示した上で、労働法の基本知識をしっかりと習得しながら、最終的には、何らかの労働問題に直面した時に、正しく判断し適切に処理することのできる法的能力を身に着けることができるようにすることが目標です。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス～講義の進め方・方針など（労働法 A の取扱事項のまとめを含む）
第2回	労働時間規制①～基本的枠組みなど
第3回	労働時間規制②～労働時間柔軟化などの特則など
第4回	休暇・休業など
第5回	労働安全衛生・労災補償など
第6回	年少者・女性の保護規定など
第7回	労使関係法総論など
第8回	団結権など
第9回	団体交渉権など
第10回	労働協約締結権など
第11回	団体行動権など
第12回	不当労働行為救済制度など
第13回	労働紛争解決システム
第14回	労働市場法
第15回	まとめと今後の労働法の課題について

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%

その他	
-----	--

成績評価の方法 (コメント)	備考 学年末の2回のレポートのみで評価します（各50％）。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。
-------------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森戸英幸	ブレップ労働法（第7版）	大学オンライン販売	9784335313332	弘文堂	

参考文献	村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣）
事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	労働法は、法律だけでなく、実際に生じた問題を取り扱った判例がとりわけ重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例などの資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。
キーワード	労働者、使用者、労働時間、賃金、ワーク・ライフ・バランス
備考(管理者用)	(旧：労働法) 02～19生読替

講義コード	1530530000
講義名称	メディア・コミュニケーション論　＜秋＞
科目英文名	Media and Communication Studies
代表ナンバリングコード	0SOC1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岩田　考

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		シンクタンクでの調査業務の経験もふまえ授業を行う	マスメディアでの業務の経験もふまえ授業を行う

講義・演習概要	現在、ソーシャルメディアの普及など私たちを取り巻くメディア環境は大きく変化しています。そのような中で、私たちのコミュニケーションや対人関係のあり方も変容しつつあります。本講義では、現代社会におけるメディア状況を把握し、「メディアを介したコミュニケーション」の特質を、身近なメディア利用などを題材にして社会的に考えます。 講義を聴いていないと単位修得は難しいため、就職活動などで欠席が多くなることが予想される学生は注意して履修してください。また、社会学の基礎知識や社会学への興味関心がまったくないと理解が難しい部分があります。社会学科以外の学生の方は、慎重に履修してください。なお、何らかの配慮を必要とする場合には、講義が開始してからなるべく早い時期に相談するようにしてください。
学習（到達）目標	メディアを介したコミュニケーションに関する社会的な理解を深めること。また、そのような理解に基づいて、メディアや、コミュニケーション、対人関係に関わる身近な社会現象を社会的な観点から考察できるようになることを目指します。なお、講義でとりあげる社会現象や映像資料によって講義の順序などを変更する場合があります。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：メディアとは何か
第2回	友人関係とメディア（1）多くの人とつながっているのになぜ孤独なのか？
第3回	友人関係とメディア（2）映像から考える友人関係
第4回	友人関係とメディア（3）友人関係とメディア利用
第5回	友人関係とメディア（4）友人関係の変容とゆくえ
第6回	恋愛とメディア（1）「恋愛離れ」は本当か？
第7回	恋愛とメディア（2）恋愛とメディア利用：マッチングアプリは「恋愛離れ」を防ぐことができるのか？
第8回	恋愛とメディア（3）恋愛のゆくえ：親密性の変容
第9回	マスメディアの影響とその変容（1）：マスメディアに人はどの程度影響を受けるのか？
第10回	マスメディアの影響とその変容（2）：マスメディアの効果
第11回	マスメディアの影響とその変容（3）：メディアと社会の関係性のとらえ方
第12回	メディアの変容と公共性（1）インターネットは社会を分断するのか？
第13回	メディアの変容と公共性（2）社会関係資本論からみたメディアの変容
第14回	メディアの変容と公共性（3）インターネット利用と排外主義
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
----	----

レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	①レポートは、800字程度の論述課題を2つ出題する予定(60%)。 なお、論述課題の内容は、第10回の授業以降に提示する。 ②その他は、各領域終了後に行う小テストおよび授業内容に関する課題（感想）（計40%）
---------------	---

参考文献	橋元良明編2008『メディア・コミュニケーション学』大修館書店 松田美佐ほか編2014『ケータイの2000年代: 成熟するモバイル社会』東京大学出版会 竹内郁郎・橋元良明・児島和人2005『新版 メディア・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ』北樹出版 辻大介編2021『ネット社会と民主主義』有斐閣 辻大介編2021『ネット社会と民主主義』有斐閣 辻大介・是永論・関谷直也2014『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣 辻泉・南田勝也・土橋臣吾2018『メディア社会論』有斐閣 吉見俊哉編2012『メディア文化論 -メディアを学ぶ人のための15話 改訂版』有斐閣 ※その他の参考文献は講義中に紹介します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義は1回ごとに完結した内容になっていますが、各回は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習をしてください。また、事後学習として、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。
キーワード	社会学、情報化、メディア、コミュニケーション、友人関係、恋愛、マスメディア、インターネット
備考(管理者用)	(旧：社会心理学) 02～18SS・17～18SW・02～07L生読替

講義コード	1530820000
講義名称	文化人類学A　＜秋＞
科目英文名	Cultural Anthropology A
代表ナンバリングコード	ANTH3410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小池　誠

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査（フィールドワーク）、研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきました。この講義では家族と結婚を中心テーマに取り上げます。とくに過去と現在における日本の家族と結婚、そして日本とはまったく異なるインドネシア東部のスンバ島の親族と結婚を取り上げ、具体的な事例をととして文化人類学の考え方を講義します。この講義は異文化理解を深め、「多文化共生をめざす国際理解の促進」につながることを目的としています。文化の多様性だけでなく、人類としての普遍性も見ていきたいと思います。私たちの常識とまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化相対主義の視点を身につけてください。
学習（到達）目標	①　文化人類学の基本的な用語と概念をきちんと理解し、正しい知識をもつ。 ②　文化人類学の考え方を理解し、それにもとづいて授業で取り上げた事例について自分の考えを述べることができる。 ③　講義で学んだことを正確にまとめ、それについて自分の意見を述べることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業ガイダンス：文化人類学の家族・結婚研究
第2回	インドネシア東部・スンバ島でのフィールドワーク
第3回	スンバの父系制：祖先との系譜のたどり方
第4回	母系社会：インドネシア・ミナンカバウ
第5回	日本の家族史：イエと家族
第6回	現代日本のゆらぐ家族
第7回	現代の生殖医療技術と親子関係
第8回	結婚の多様性：誰が誰と結婚するか
第9回	一般交換と母方交叉イトコ婚
第10回	スンバの母方交叉イトコ婚
第11回	スンバの結婚と交換
第12回	LGBTQ+ と分類：性自認と性的指向
第13回	新しい結婚のかたち：アメリカと台湾の同性婚
第14回	同性カップルと子ども
第15回	講義のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	30%
レポート	40%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	試験は授業内容に関する小テスト（3点満点）を計10回実施する（計30点）。 レポートは中間レポート（10点）および最終レポート（30点）の計2回実施する。 その他は、5回の課題（3点）と毎回の授業中に書く質問またはコメント（1点）によって授業への積極的な参加度を評価する（計30点） 出席自体は評価の対象にならないので、かならず授業中に質問またはコメントを書いてください。
---------------	--

参考文献	小池誠、2005、『東インドネシアの家社会――スンバの親族と儀礼』晃洋書房 平井晶子ほか編著、2017、『シリーズ家族研究の最前線② 出会いと結婚』日本経済評論社 山下晋司・船曳建夫編、1997、『文化人類学キーワード』有斐閣 このほか、講義のテーマに応じて授業中に参考図書を紹介する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	次回の授業までに読んでおくべき資料を配布しますので、よく読んでから授業に出てください（事前学習）。また、授業後、かならず資料を読み直して事後学習してください。なお、授業で取り上げたテーマに関連する資料などを積極的に読むようにしてください。
キーワード	異文化・家族・親族・結婚
備考(管理者用)	（旧：文化人類学）02～17SS・L生読替

講義コード	1531230000
講義名称	教育社会学B　＜秋＞
科目英文名	Sociology of Education B
代表ナンバリングコード	0SOC2490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
山内　乾史

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本授業は、教育の世界で起きる諸問題を社会的視点から捉えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本授業では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。また、発展途上国の教育問題もアジア、特にインドを中心にしてお話しします。
学習（到達）目標	教育を社会的にとらえるとはどういうことなのかというものの考え方を習得することを本講義は目標とします。そのために、さまざまな諸外国の教育を取り上げ、比較することによって、日本社会の普遍性と特殊性について考えることを講義の中心にしています。講義は多人数になることが予想されますし、海外の教育について語る機会が多いため、映像による資料提示が多くなると思います。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション 学校教育制度の諸類型（その１）－いじめ問題の国際比較
第2回	学校教育制度の諸類型（その２）－特別支援教育の国際比較
第3回	エリート教育の国際比較－パブリックスクールとオックスフォード・ケンブリッジ－
第4回	教育実習の教育社会学（その１）－小学校
第5回	教育実習の教育社会学（その２）－特別支援学校
第6回	教師の多忙化をめぐって（その１）－政策的課題を中心に－
第7回	教師の多忙化をめぐって（その２）－対応策を中心に－
第8回	いじめ問題と道徳教育（その１）－中学校の事例－
第9回	いじめ問題と道徳教育（その２）－小学校の事例－
第10回	生徒指導のあり方をめぐって
第11回	日本の特別活動の特徴をめぐって
第12回	若者の就労をめぐって－フリーター論を中心に
第13回	大学時代に何を学ぶべきか－大学生生活の過ごし方
第14回	アクティブラーニングをめぐって
第15回	まとめと「『到達度・理解度』の確認」

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	0%
その他	30%

成績評価の方法 (コメント)	「試験」については15回目の授業で行う「到達度・理解度」の確認をもって評価する。「その他」については毎回の授業で授業内容に関する課題を出し、ミニッツ・ペーパーを提出してもらう。これへの記載内容をもって評価する。
-------------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	山内乾史	「大学教育と社会」ノートー高等教育論への誘いー	大学オンライン販売	9784762030154	学文社	必ず用意すること

参考文献	原清治・山内乾史編(2019)『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』ミネルヴァ書房 山内乾史・武寛子(2024)『「学校教育と社会」ノートー教育社会学への誘いー（第四版）』学文社
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習：指定テキストの該当する章を熟読すること。 事後学習：各自テキストと参考書を使ってしっかり復習しておくこと。
その他備考（担当教員用）	最終回の「『到達度・理解度』の確認」は教科書のみ持ち込み可（書き込み可）にする予定です。必ず用意してください。 教材としてDVDを多用します。ほぼ毎回見ていただきます。視力に問題がある方は教室前方に、あるいはモニターが見えやすい位置にお座りください。
キーワード	学校 大学 教育 社会
備考(管理者用)	（旧：教育社会学）02～19生読替

講義コード	1540030000
講義名称	労働社会学　＜秋＞
科目英文名	Labor Sociology
代表ナンバリングコード	0SOC3460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
萩原　久美子

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
	報道経験に基づいた現場と政策過程の実態を踏まえて講義する		

講義・演習概要	本講義は大きく三つのパートに分けて「労働」を論じる。まず、そもそも「労働」とは一体、どんな活動や行為を指すのだろうか。「労働」概念の変化を歴史的に俯瞰し、現代へと追いつけていこう。ITを基盤とするプラットフォームビジネスはギグワーカーと呼ばれる労働者を生み出し、雇用労働という概念を揺るがせている。この点を考察していこう。しかし、その一方で、対人・接客サービスに代表されるサービス経済化の進展は労働者に「心」の管理統制を要求する。私的な領域に浸透する管理のまなざしは何をもたらそうとするのだろうか。そして、最後に取り上げるのは、この社会はだれにどのような「労働」を割り当てているのか――という問題である。性別、人種、国籍、性的志向、年齢によって有償労働とケアの割り当ては異なり、だれが行うかによっても「労働」の社会的意味や評価も異なってくる。日本社会における仕事と家族とのインターフェイスをひも解きながら、よりよい社会への構想を皆さんと検討していきたい。
学習（到達）目標	①労働に関する基礎的な概念と理論を理解すること。 ②雇用労働の変化と日本における労働――特に仕事と家族とのインターフェイスをめぐる今日的課題を説明できるようになること。 ③労働を通じた社会的正義の実現について考察できるようになること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	労働とは何か① 日本人は働き者か――日本社会の労働観と歴史的変遷
第3回	労働とは何か② 西洋社会における「労働」の系譜
第4回	労働とは何か③ 労働観をめぐる古典理論と現代への示唆
第5回	労働とは何か④ ポスト工業社会の労働と雇用労働の動揺
第6回	労働とは何か⑤ 労働概念の再定義　家事労働の発見、ケア労働の今
第7回	中間まとめと考察
第8回	サービス経済化と労働世界の変容① 産業構造、就業構造の変化
第9回	サービス経済化と労働世界の変容② サービス経済の特性とその労働過程
第10回	サービス経済化と労働世界の変容③ 感情労働――私的領域に浸透する労働と統制
第11回	仕事と家族のインターフェイス① 雇用のリスク、家族というリスク
第12回	仕事と家族のインターフェイス② 理想のライフコースと就労の実情

第13回	仕事と家族のインターフェイス③ 日本型福祉社会の形成と動揺 復興から高度成長、オイルショック
第14回	仕事と家族のインターフェイス④ 日本型福祉社会の再編の行方
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	レポート（授業課題、期末課題の計4回を予定） その他（受講姿勢、課題提出回数等） 以上を総合的に勘案して評価する
---------------	--

参考文献	上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房 佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣ブックス 中西啓喜、萩原久美子、村上あかね編著『大学生から見るライフコース』ミネルヴァ書房 その他授業内でテーマに関連した文献や資料を配付、紹介する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	配付した資料と参考文献で予習、復習すること。各テーマにつき学習内容に関する課題レポートを課す。配布資料、レジュメ、参考書を利用してキーワードや講義内容の整理を行い、講義での議論およびレポートの準備を行うこと。ガイダンスで示す講義スケジュールと課題に関する連絡事項を確認し、予習・復習、レポート課題提出等のスケジュール管理をしっかりと行ってください。
キーワード	雇用労働の変化 サービス経済化 ケア 仕事と家族 ジェンダー 日本型福祉社会
備考(管理者用)	（旧：産業社会学）02～20SS・02～10E・11～20E・02～20SW・B・J・08～20L生読替

講義コード	1677930000
講義名称	ドイツの文化B　＜秋＞
科目英文名	Studies on German Culture B
代表ナンバリングコード	CULT2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
高田　里恵子

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

講義・演習概要	20世紀は「戦争の世紀」「大衆の世紀」と言われることがあります。まず、第1部「第一次世界大戦とその犠牲者」では、ヨーロッパを衰退させた第一次世界大戦について、敗戦国となったドイツを中心にして考察します。 次に、第2部「ナチ党と「青年」」では、1930年前後に台頭し、大衆の、とりわけ若い世代の支持を得たナチ党を取りあげます。その特徴を掴むにあたってナチ党の「学校政策に注目します。
学習（到達）目標	文学作品や映像作品など具体的な事例に触れながら近代ドイツに特徴的な歴史状況を見ていくことによって、考察力と分析力を身につけることを目標とします。 この講義では、授業の内容を自分でうまくノートにまとめる練習、人の話の要点を的確につかむ訓練をしていただきたいと思います。講義の前に「予習用スライド」を、講義後に「授業スライド」をアップロードします。詳細は学期の開始時に授業資料としてアップロードする「パワーポイント・スライド配布について」をよく読んでください。 また、小テストやコメントシートなどを通して、わかりやすく簡潔な文章を書く練習をします。 この講義の目標は、何かを暗記することや歴史事項を確認することではありません。さらなる勉学や就職活動のために、聞く力・書く力・話す力を身につけることが目標となります。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	講義の進め方や内容、試験、成績評価について説明する。 この講義で扱うテーマと時代について
第2回	第1部　「第一次世界大戦とその犠牲者」 第一次世界大戦の衝撃をめぐって
第3回	第一次世界大戦の新しさについて
第4回	第一次世界大戦がつくりだした世代
第5回	第一次世界大戦と反戦思想
第6回	第一次世界大戦と戦友感情
第7回	『ドイツ戦歿学生の手紙』について
第8回	日本における『ドイツ戦歿学生の手紙』の受容
第9回	第2部　「ナチ党と「青年」」 ナチ党の成立と台頭
第10回	ワイマル文化批判
第11回	ナチズムの思想について
第12回	ナチ党の新しい学校① ギムナジウム教育批判
第13回	ナチ党の新しい学校② 自然讃歌と教育について
第14回	ナチ党の新しい学校③ ファシズムの嵐の中でどう生きるか
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	30%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	「試験」は、対面の小テスト(1回10点)を2回行ないます。問題はその日の講義の内容に基づいてます。記述式で一問のみ。200字以上300字以内の解答となります。 「レポート」は、期末レポートとして最後の授業の終了後に課題を出します。ウェブ提出することになります。だいたい800字から1200字程度のレポートにする予定です。 「その他」については、ほぼ毎回提出していただくコメントシートや（小テスト実施日にはコメントシート提出はありません）、挙手での発言などを総合的に判断します。コメントシートに書いてもらう内容は、講義の最後に出す課題の解答です。コメントシートに感想や授業のまとめを書いていただくことはありませんので、ご注意ください。この言わば平常点が評価の中心となります。つまり、成績評価において重要なのはコメントシートの提出です。 詳細は学期の開始時に授業資料としてアップロードする「コメントシート、レポート、テストの採点基準について、及びコピーに対する処置ついて」をよく読んでください。
---------------	---

参考文献	坂井栄八郎『ドイツ史10講』（岩波新書） 石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社現代新書） 小野寺拓也・田野大輔『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』（岩波ブックレット 1080） ウォルター・ラカー『ドイツ青年運動――ワンダー・フォーゲルからナチズムへ』（人文書院）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	予習として、授業で扱う作品や参考文献のうち、文庫などで入手しやすいものを自分で読んでみることをすすめます。直接には試験にはつながりなくとも、学生時代にさまざまな読書に挑戦ことは重要です。 また復習として、授業後にノートの内容を整理し、不明な部分は自分で調べたり、教員に質問したりして補っておくことをすすめます。
キーワード	ドイツ近現代史 第一次世界大戦 第二次世界大戦 ナチズムの思想
備考(管理者用)	(旧：ドイツ文化論) 02～17B・02～17L生読替

【社会人の方へ】
1年生も受講できる科目のため、基本的な事項（ノートテイキング、受講態度など）の指導が講義に含まれる可能性もあります。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大野哲也	大学1冊目の教科書 社会学が面白いほどわかる本	大学オンライン 販売		KADOKAWA	

参考文献	今泉隆裕・大野哲也編『社会をひらくスポーツ人文学』嵯峨野書院 今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学 歴史・メディア・グローバリゼーション』 嵯峨野書院
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習30時間。事後学習30時間。
その他備考（担当教員用）	状況に応じて、授業で扱う項目を調整したり、順序を入れ替えたりする場合がある。
キーワード	スポーツ、健康、身体、文化史
備考(管理者用)	(旧：健康・スポーツ学講義〔2〕－身体の文化史) 02～19生読替

講義コード	1E60050002
講義名称	健康・スポーツ科学講義-健康教育論 02<秋>
科目英文名	Lecture for Health and Sports Science-Health Education
代表ナンバリングコード	HSPT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大西 史晃

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	健康に関わる要素は多様であり、それらが日常の中でどのように変化するのか、あるいはどうすれば変化させることができるのかを知ることは人生の様々な時点で豊かなライフスタイルを獲得する上で重要です。本講義では、健康教育の要素と構造についての基礎知識を学びます。 本講義における前半部は、「健康」そのものについての定義やその要素に関する評価法について説明します。後半部では、前半部で学んだ「健康の要素」を整える、あるいは獲得する過程でみられる人の行動変容について提唱されてきた行動科学モデルについて説明するとともに、健康教育の実例の例を概説します。
学習（到達）目標	本講義では、「健康」とはどのような状態かを知り、その関連要素を満たすために必要な知識を修得するとともに人が健康行動を実施する過程を認識することを通して、人々が社会の中で健康行動を実施・継続するために必要なことを理解することを目指します。 講義内では「健康とはどのような状態かについて3つの観点から説明できる」、「健康教育の発展について提唱された理論やモデルについて説明できる」、「日常の身体活動量を評価できる」を具体的な到達目標とします。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（授業の概要・成績評価・課題の説明含む）
第2回	「健康」の定義
第3回	精神的健康に関わる要素
第4回	肉体的健康に関わる要素
第5回	社会的健康に関わる要素
第6回	精神的健康とストレスの評価法
第7回	Quality Of Life(QOL)と身体活動量の評価法
第8回	「健康教育」とはなにか？
第9回	行動科学のモデル①KAPモデル/ヘルスビリーフモデル
第10回	行動科学のモデル②トランスセオレティカルモデル/Health Action Process Approach
第11回	行動科学のモデル③社会的認知理論
第12回	行動科学のモデル④Precede-Proceedモデル
第13回	「ヘルスプロモーション」の3つの前提条件と5つのアクション
第14回	我が国のヘルスプロモーションの実際
第15回	諸外国のヘルスプロモーションの実際

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	①小テスト10回-100%（各10%）
---------------	---------------------

参考文献	「実践　ヘルスプロモーション」ローレンス W. グリーン&マーシャル W. クロイター、医学書院
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	健康に関する書物や映像で事前に学習し、理解しておくようにしてください。これにより、講義を通して健康問題やそれに関する個人や社会の動きへの理解をより深めることができます。
キーワード	健康、健康教育、ヘルスプロモーション
備考(管理者用)	（旧：健康・スポーツ学講義〔2〕－健康教育論）02～19生読替

講義コード	1530420000
講義名称	文化社会学[2]　＜秋＞
科目英文名	Cultural Sociology
代表ナンバリングコード	0SOC2460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
名部　圭一

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	1980年代から1990年代にかけての日本における知と文化の移り変わりを、それぞれの時代を代表する論者を取り上げながら解説する。80年代に席卷したポストモダンの思想と文化は、90年代以降どのようなかたちで受け継がれ、またどのような点で変容したのか？ 当時の社会状況と関連づけながら、これらふたつの時代の連続性と断絶を探る。
学習（到達）目標	・戦後日本社会における文化変容を社会学的観点から理解すること。 ・少し前の時代との比較を通して、現代とそうした時代の連続性と差異を把握すること。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	戦後日本社会を振り返る
第3回	ポストモダンとは何か？
第4回	脱構築とは何か？
第5回	浅田彰（1）：シラケとノリのダイナミズム
第6回	浅田彰（2）：スキゾ・キッズの逃走論
第7回	山崎正和：消費社会の美学
第8回	上野千鶴子：差別化と広告文化の時代
第9回	柄谷行人：《他者》と単独性
第10回	宮台真司（1）：新人類／オタク研究と島宇宙の共同性
第11回	宮台真司（2）：成熟社会とまったり革命
第12回	大澤真幸：虚構の時代の果て
第13回	東浩紀：動物化するポストモダン
第14回	ポストモダンの意味変容：前期ポストとモダンから後期ポストモダンへ
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	期末レポート：70％ 課題レポート：30％ ※レポートはいずれもM-Portで提出。 ・課題レポートにはテーマに即した自身の考えを書いてもらう。なお、課題レポートの点数は出席点ではない。提出されたレポートが無内容もしくは不適切と判断した場合、得点を与えないので、しっかりと考え内容のあるレポートを出すこと（無内容なものを提出するぐらいなら、出さない方がまし）。 ・期末レポートは大きめのテーマを与え、1500～2000字で書いてもらう。成績評価は厳しめ、いわゆる「楽単」や「カモ」ではないので、覚悟して履修するように。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						教科書の代わりにレジュメと資料を配布する。

参考文献	・吉見俊哉『日本近現代史9 ポスト戦後社会』岩波書店（岩波新書） ・佐々木敦『ニッポンの思想 増補新版』筑摩書房（ちくま文庫） ・仲正昌樹『集中講義！日本の現代思想』NHK出版（NHKブックス） ・斎藤美奈子・成田龍一（編著）『1980年代』河出書房新社（河出ブックス） ・大澤聡（編著）『1990年代論』河出書房新社（河出ブックス） ・宮沢章夫＋NHK「ニッポン戦後サブカルチャー史」制作班『NHKニッポン戦後サブカルチャー史』NHK出版
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	日ごろから、新聞、雑誌、ネットなどで（サブカルチャーを含む）文化にかかわる記事や情報に接するよう心がけてください。また、本を読んだり音楽を聴いたり映画やドラマを見たりする際、それらの作品が何年に発表されたものなのかを意識するようにしてください。
キーワード	モダン ポストモダン 差異化 相対化 大きな物語 パラノ スキゾ 生産 消費 柔らかい個人主義 他者 社会 共同体 単独性 新人類 オタク 島宇宙 終りなき日常 理想の時代 虚構の時代 物語消費 データベース消費 動物の時代 環境管理型権力
備考(管理者用)	（旧：文化社会学）02～18SS・17～18SW・02～07L・15～18L生読替

講義コード	1676210002
講義名称	ネットワーク論 02<秋>
科目英文名	Introduction to Information Applications
代表ナンバリングコード	OICT2450
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中崎 修一

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。さらにセキュリティの観点から、情報通信ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。本講義では、ネットワーク関連技術を中心に、現在および今後のネットワークシステムに関して解説する。
学習（到達）目標	現代社会と情報通信ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、情報通信ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービス提供やビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	現代社会と情報通信
第2回	情報通信の基礎知識 n進数の基礎、データとは、通信の方向
第3回	情報通信のしくみ(1) ネットワークの基本
第4回	情報通信のしくみ(2) プロトコル、階層構造、IP(1)
第5回	情報通信のしくみ(3) IP(2)、TCP、UDP
第6回	情報通信のしくみ(4) WWWのしくみ、DNS
第7回	情報通信のしくみ(5) HTTP
第8回	情報通信のしくみ(6) Webブラウザ、ネットワーク機器
第9回	インターネット(1) サービス基盤
第10回	インターネット(2) コミュニケーションツール
第11回	ネットワーク設計と構築
第12回	ネットワークセキュリティ(1) 基礎知識、安全な運用
第13回	ネットワークセキュリティ(2) 事例考察
第14回	情報通信技術の活用(1) ネットワーク形態、有線・無線接続
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	56%
その他	44%

成績評価の方法（コメント）	レポート課題（またはそれに準ずる課題）を計7回実施予定である。 『その他』の内訳は、授業参加（出席に近い）14%、授業中の成果物提出 30%とする。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大喜多利哉	クラウド時代のネットワーク入門 要素技術、設計運用の基本、ネットワークパターン	大学オンライン販売	978-4-7981-6603-2	翔泳社	

参考文献	適宜紹介
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習及び事後学習については、その都度配布資料等で指示する予定である。 普段から情報通信ネットワーク（携帯電話を含む）について、利便性や安全面を意識しながら利用してもらいたい。 パソコンやインターネット関連の基本的な用語理解、利用方法の習得を前提として授業を進行するため、再確認しておくこと。
キーワード	情報通信、ネットワーク

【社会人の方へ】
PC必須となります。

講義コード	1765240002
講義名称	日本文化史B 02<秋>
科目英文名	Cultural History of Japan B
代表ナンバリングコード	CULT3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
南郷 晃子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本授業は説話・伝承世界を中心に、日本文化の中で「周縁」とされるみなされてきた人々・文化への、またそこからの視点を読み解いていきます。具体的には、江戸時代「キリシタン」と呼ばれたキリスト教徒、そして「バテレン」と呼ばれたキリスト教宣教師への眼差しを江戸の物語を中心に扱います。物語表現はときにシビアな差別を含み、その背後には、人々が彼らを「異なる存在」として見るまなざしがあります。これら表象について学び一緒に考えていきましょう。 講義形式ですが、コメント・意見をもとめます。
学習（到達）目標	「周縁」と「中心」という考え方について、具体的に説明できるようになる。さらに「他」文化をめぐる表象について自ら検討し、考察をすることができるようになることを目指す。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	キリスト教布教時代について
第3回	誤解と布教
第4回	迫害のはじまりと殉教
第5回	反キリシタン言説
第6回	遠藤周作『沈黙』
第7回	潜伏キリシタンの世界
第8回	フィクション化するキリシタン：芸能から
第9回	キリシタンと奇術
第10回	キリシタンと怪談
第11回	キリシタンと狩獵民
第12回	異文化へのまなざし
第13回	民間宗教者とキリシタン
第14回	近代化におけるキリシタン
第15回	まとめと試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法 (コメント)	その他50％は毎回の授業時に取り組んでもらうミニ課題です。課題の回答を通じて、授業に前向きに取り組んでいるかどうかを判断します。。ChatGPTなど生成AIの利用はみとめません。5回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。
-------------------	--

参考文献	宮崎賢太郎『カクレキリシタン 現代に生きる民俗信仰』角川ソフィア文庫、2018年
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業用に配布するレジュメに含む説話をあらかじめ読み、内容を把握しておくこと。
キーワード	キリシタン、周縁、異文化誤解、異端
備考(管理者用)	(旧：日本文化史) 02～17生読替

講義コード	17F4450000
講義名称	社会言語学（方言・敬意表現）　　<秋>
科目英文名	Sociolinguistics（Dialect Politeness）
代表ナンバリングコード	LING3500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
村中　淑子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	日本語における方言学および敬意表現に関する入門的内容を講じる。 明治期に成立した標準語がマスメディアの発達とともに全国に広がり、方言は消滅するだろうと言われた時期もあったが、21世紀になった現在も方言は存在し、新しい方言も生まれてきている。方言、すなわち地域の言語に関する研究は、江戸時代から存在したが、明治以降、調査方法が洗練され、戦後に社会言語学的方法が取り入れられて大きく発展した。この授業では、方言研究の様々な成果を紹介し解説する。 敬意表現（より広い意味にとれば待遇表現と呼んでもよい）に関しても多様な研究が今まで行われてきている。この授業では、敬意表現（待遇表現）のとらえ方を示し、注意すべき点について講じる。 日本語教員養成課程の科目であることから、日本語教育において、方言および敬意表現がどのように扱われているかについても紹介する。
学習（到達）目標	（１）方言の全国分布、方言の変化、方言と標準語の使い分け、などについて、調査結果に基づく知識を得る。 （２）方言を語彙・文法・音声のカテゴリに分けて分析的に把握できる。 （３）日本語にさまざまな敬意表現（待遇表現）があることを知り、そのしくみを簡単に説明できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	この授業科目全体の概要説明。参考文献の紹介。 方言、共通語、標準語とは。方言の研究について。
第2回	方言区画論。方言研究の始まり。東西対立分布。周囲論の分布。
第3回	方言分布のさまざまなタイプ（東西対立型、同心円型、南北対立型、複雑型、等）。中央部と周辺部。
第4回	日本語方言の地域差。音声項目。
第5回	日本語方言の地域差。文法項目（アスペクト、条件表現、理由表現）。
第6回	方言の変化、方言と標準語の使い分け。
第7回	新しい方言、気付きにくい方言。
第8回	方言録音資料、方言データベースについて。
第9回	復習（小テスト１）。方言についての授業内容を振り返る。
第10回	いわゆる敬語について。敬意表現・待遇表現とは。マイナス敬語とは。
第11回	尊敬語と謙譲語と丁寧語。間違いやすい敬語。
第12回	日本語教育における「敬意表現」「待遇表現」の扱い。
第13回	復習（小テスト２）。敬意表現についての授業内容を振り返る。
第14回	日本語教育における「方言」の扱い。
第15回	学期末試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
----	------

レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	小テスト2回（各20％）と最終試験60％で評価する。
---------------	----------------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.			プリント配布			教科書は指定しない。

参考文献	木部暢子ほか（2014）『方言学入門』三省堂、佐藤亮一（2002）『方言の地図帳』小学館、沖森卓也編著（2010）『日本語概説』朝倉書店、大西拓一郎編（2016）『新日本言語地図: 分布図で見渡す方言の世界』朝倉書店、真田信治（2002）『方言の日本地図　ことばの旅』講談社＋α新書、文化庁編集（1971年）『待遇表現(日本語教育指導参考書〈2〉)』
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	前回までの授業内容が頭に入っていることを前提に講義を進めるので、配布プリント（M-portで配布）や自分でとったノートをもとに復習しておくこと。
キーワード	方言、言語地図、大規模調査、談話資料、敬語、待遇表現、マイナス敬語
備考(管理者用)	（旧：日本語の音声B）18生読替☆（旧：日本語の音声）08～17生読替

講義コード	1N10730000
講義名称	会社法B　＜秋＞
科目英文名	Corporate Law B
代表ナンバリングコード	0LAW3400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大川　済植

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	〔会社法B講義の目的〕 現代のビジネス社会において、株式会社は経済活動の中心的な存在です。2005年に制定された会社法は、株式会社の運営や管理に関するルールを定め、会社とそのステークホルダー（株主、経営者、債権者、従業員など）の利益を調整するための重要な法律です。この講義では、以下のポイントについて学びます。 ≪会社法Bの重要性について≫ 1. 会社法の遵守の必要性 会社は、会社法の定めるルールに従って事業活動を行わなければなりません。この法律は、会社の経営透明性や公正性を確保し、ステークホルダーの権利を守るために不可欠です。 2. 実践的な学問としての会社法 会社法は単なる理論ではなく、ビジネスパーソンとして必要不可欠な実践的な学問です。会社法の知識は、会社内での意思決定や戦略立案において重要な役割を果たします。 ≪会社法Bの提供内容≫ 1. 会社の法実務に直結する知識 会社法を学ぶことで、実際のビジネスシーンでどのように法が適用されるのかを理解し、将来のキャリアに役立てることができます。法的リスクを認識し、それに対処するためのスキルを身につけることで、受講生は会社内での意思決定に自信を持って臨むことができます。 2. 視覚的な学習 単元ごとに図表を用いて、複雑な法的概念や法制度をわかりやすく解説します。視覚的に理解することで、記憶に残りやすく、受講生は法律の流れや関係性を視覚的に把握でき、より深い理解が得られます。 3. 具体的な事例研究 各単元の最初に会社ビジネスに関する法実務上の具体例を提示し、受講生がイメージしやすいようにします。実際の会社のケーススタディを通じて、法的な問題がどのように解決されたのかを学ぶことで、受講生は実務に活かせる洞察を得ることができます。 4. 設問を通じた考察 単元ごとに設けられた設問を通じて、受講生が自ら考え、理解を深める授業を行います。設問を設けることで、会社法の原則や適用方法をより深く理解できるようになります。 5. 講義レジュメの提供 講義のレジュメを1週間前までに提供し、予習ができるようにします。これにより、受講生は事前に内容を把握し、より深い理解を得ることができます。 6. オンデマンド形式の復習 講義内容を録音したオンデマンド形式のファイルをOneDriveにアップロードし、いつでも復習できるようにします。これにより、自宅での復習や、忙しい合間を利用した学習が可能となり、理解を深める助けになります。 ≪学習方法≫ 受講生の理解を深めるために、以下のアプローチを採用します。 法制度論: 会社のビジネスに関連する法律の全体像を概観し、法律の枠組みを理解します。これにより、受講生は法律の背景や目的を把握し、学びを深めることができます。 法規範論: 会社のビジネスに係る具体的なルールについて学び、実務にどう適用されるかを探ります。受講生は、法律の条文や解釈を通じて、実務に必要な知識を身につけます。 法解釈論: 判例や学説を通じて、法律の解釈方法を学び、実際の事例にどのように適用されるかを考察します。これにより、受講生は法律の実務的な側面を理解
---------	--

	し、問題解決能力を高めることができます。
	この講義では、受講生が会社法の基本を理解し、実務に役立つ知識を得ることを目指します。具体的な事例を交え、初心者にもわかりやすく進めますので、ぜひ積極的に参加してください。
学習（到達）目標	国家三大資格試験（司法試験・公認会計士）やその他の資格試験（司法書士・行政書士）、さらに東京商工会議所が主催するビジネス実務法務検定試験などにおいて必須科目とされる会社法は、取り扱いが難しい法律科目とされています。これは、法的な用語や制度が複雑であるためです。 しかし、本講義では、株式会社の事業活動に関連する会社法制度や法規について、受講生が全体像を理解できるように、分かりやすく図解しながら進めていきます。このアプローチにより、受講生は実務に役立つ知識を習得できることを目指します。ぜひ積極的に参加し、知識を深めてください。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	株式に関する法制度① →株式と株主、株主の権利義務、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則について検討する。
第2回	株式に関する法制度② →株式と株主、株主の権利義務、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則について検討する。
第3回	株式に関する法制度③ →株式と株主、株主の権利義務、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則について検討する。会社の計算書類の概観について②
第4回	株式に関する法制度④ →自己株式の取得について検討する。取締役会設置会社の監査機関である「監査役」と「監査役会」の相違点について
第5回	株式に関する法制度⑤ →株式譲渡の方法、基準日、株主名簿について検討する。委員会型会社の監査機関である「監査委員会」と「監査等委員会」の相違点について
第6回	会社の計算書類の概観について①
第7回	会社の計算書類の概観について②
第8回	会社の監査機関の概観について①
第9回	会社の監査機関の概観について②
第10回	会社の資金調達の方法① →会社の資金調達に関する方法を概説したうえで、募集株式の発行等の手続き、募集株式の発行等のの法的効力について検討する。
第11回	会社の資金調達の方法② →会社の資金調達に関する方法を概説したうえで、募集株式の発行等の手続き、募集株式の発行等のの法的効力について検討する。
第12回	会社の資金調達の方法③ →会社の資金調達に関する方法を概説したうえで、募集株式の発行等の手続き、募集株式の発行等のの法的効力について検討する。
第13回	企業の組織再編① →会社間の事業譲渡と合併の経済的意義および機能についての理解を深める。
第14回	企業の組織再編② →会社の事業分割と株式交換・株式移転による親子会社創設の経済的意義および機能について理解する。
第15回	企業の組織再編③ →会社の事業分割と株式交換・株式移転による親子会社創設の経済的意義および機能について理解する。

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	60%
その他	

成績評価の方法（コメント）	会社法Bの成績評価は、①授業への参加度や春学期理解力小テスト（配点：40点）、②レポート課題提出（配点：60点）を基に決定します。秋学期理解力小テストは課題の形で実施され、成績評価の具体的な方法については、3回目の対面授業で詳しく説明します。
---------------	---

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備 考
--	-----	------	---------	------	-----	-----

1.	編著（高橋英治）著者（大川済植ほか）	プリンシプル会社法	大学オンライン販売	978-4-335-35837-1	弘文堂	
2.	編集代表（佐伯仁志＝大村敦志）	ポケット六法	大学オンライン販売	9784641009257	有斐閣	

参考文献	龍田 節＝前田雅弘『会社法大要〔第3版〕』（有斐閣、2022年）
事前および事後学習の指示 （事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	限られた授業時間内において、「会社法A」のすべての内容を網羅的に詳説することは物理的に不可能です。そこで、以下の2点に振り分けることで授業の効率化を図ります。 1.授業で講述すべき内容 2.受講生の自学自修に委ねるべき内容 本講義では、受講生が事前学習を行う際にテキスト等を読むだけで理解できる内容や、説明しなくてもよい内容については省略します。その代わりに、「会社法A」の基本的事項に焦点を当て、受講生が問題意識を持って具体的に考える授業を進めます。 受講生には、「会社法A」の主要内容から選別した重要論点を中心に授業内容を理解していただくため、テキストや予習（復習）用レジュメ、復習資料（オンデマンド形式の録音ファイル）、参考文献などを活用し、授業で詳説しない内容や取り扱わない内容についても幅広く学習していただきたいと思います
キーワード	監査機関、株主と株式、株主平等の原則、株式譲渡自由の原則、自己株式の取得、資本制度、資金調達、企業組織の再編
備考(管理者用)	（旧：商法Ⅰ）02～07生読替（E・CBCC・B・J生のみ）☆（旧：会社法）08～19生読替（E・CBCC・B・J生のみ）

講義コード	14D2120000
講義名称	日本経済史Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Economic History of Japan Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON1480
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
見浪　知信

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	1900年代から、現代にかけての日本経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、日本経済について統計データや図表もとに具体的に説明します。戦争や高度成長・福祉国家の達成の過程を検討するとともに、現代の日本経済を歴史的な観点から説明します。
学習（到達）目標	①　日本経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。 ②　歴史的な知識および視野をもとにして、現状を捉えることができる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス 現代経済をどう捉えるか
第2回	両大戦間期① 第一次世界大戦と輸出ブーム
第3回	両大戦間期② 1920年代における慢性不況
第4回	両大戦間期③ 1920年代における経済成長
第5回	両大戦間期④ 世界大恐慌と日本経済
第6回	両大戦間期⑤ 高橋財政と景気回復
第7回	戦時・戦後期① 戦時経済体制の展開
第8回	戦時・戦後期② 戦時経済体制の崩壊
第9回	戦時・戦後期③ 戦時下の民衆生活
第10回	戦時・戦後期④ 占領政策と戦後改革
第11回	戦時・戦後期⑤ 経済復興への道
第12回	高度成長期 高度成長と消費社会の成立
第13回	安定成長期 貿易摩擦と経済大国化
第14回	長期停滞期 バブル経済とその後
第15回	期末試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	30%
その他	

成績評価の方法（コメント）	この講義の成績は、第15回の講義時に実施される期末試験、および講義中数回出される小レポートから算出される。
---------------	---

--

参考文献	タイトル：『日本経済史：近世から現代まで』、著者：沢井実・谷本雅之著 出版社：有斐閣、ISBN：9784641164888、備考：2016年出版
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。 授業後に、授業レジュメの内容を復習し、小レポートおよび期末試験に向けて学習すること。
備考(管理者用)	(旧：日本経済史) 02～10生読替

講義コード	14D5920000
講義名称	国際経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	International Economics Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON2655
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
浅海　達也

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この講義では国際経済論を国際金融の観点から学ぶ。グローバル化の進展に伴い、モノ・ヒトだけでなくカネの国際間取引が増加している。このような国際金融はどのようにして我々の生活に影響するのだろうか。この問いに対して、異なる通貨（例えば円とドル）の交換比率である為替レートに注目して明らかにする。さらにこの為替レートは国際通貨システムによって大きく異なるため、固定為替相場制や通貨統合についても取り扱う。 講義はスライド資料と実際のデータを基に進める。前回の講義と関連がある場合には冒頭で前回の復習を取り入れる。受講者は結果の暗記ではなく、論理的な説明を通じて国際金融の考え方を身に付ける。
学習（到達）目標	この講義に積極的に参加することを通じて、 (1) 為替レートの変化による我々の生活への影響について理解する。 (2) 為替レートの決定メカニズムを理解する。 (3) 財政・金融政策による為替レートへの影響を自分で考えることができる。 (4) 国際通貨システムの変遷と現状を把握する。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス 国際経済論における国際金融 国際貿易と国際金融
第2回	金利と為替レート：アセットアプローチ (1) 【外国為替市場】
第3回	金利と為替レート：アセットアプローチ (2) 【金利平価－短期的な為替レートの決定】
第4回	貨幣・金利と為替レート：マネタリーアプローチ (1) 【貨幣市場】
第5回	貨幣・金利と為替レート：マネタリーアプローチ (2) 【金利と為替レートの同時決定】
第6回	物価と為替レート：マネタリーアプローチ (3) 【購買力平価－長期的な為替レートの決定】
第7回	物価と為替レート：マネタリーアプローチ (4) 【実質為替レート】
第8回	産出と為替レート (1) 【産出市場と資産市場】
第9回	産出と為替レート (2) 【財政政策と金融政策】
第10回	産出と為替レート (3) 【経常収支】
第11回	固定為替レートと外国為替介入 (1) 【外貨準備と貨幣供給】
第12回	固定為替レートと外国為替介入 (2) 【不胎化介入】
第13回	国際通貨システム (1) 【制度の変遷】
第14回	国際通貨システム (2) 【最適通貨圏】
第15回	国際経済論Ⅱのまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	25%
----	-----

レポート	75%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	試験が25%、各回（第2～14回）の授業内容に関するレポートが75%。 レポートでは各回の授業後に、講義を受けて学んだことを自分の言葉で説明する。 試験では第15回の授業後に、講義内容を理解しているかどうかを確認する。 なお公認欠席を除く欠席が4回以上の場合、成績評価をしないので注意すること。 （遅刻についても、その程度に応じて欠席回数にカウントされる。）
---------------	--

参考文献	P. R. クルーグマン 著 / M. オブストフェルド 著 / M. J. メリッツ 著 / 山形 浩生 訳 / 守岡 桜 訳 (2017) 『クルーグマン国際経済学 理論と政策〈下〉金融編』丸善出版.
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習では国際金融に関するニュースや記事を読み、国際金融への関心を深める。 事後学習では講義内容を復習するとともに、その内容がどのニュースや記事と対応しているのか考える。
その他備考（担当教員用）	(1) 「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。 (2) 「国際経済論Ⅱ」では国際金融を学び、「国際経済論Ⅰ」では国際貿易を学ぶ。 (3) 参考文献はテキストとしては指定しないが、講義内容の理解を深めてより発展的な内容を学ぶために役立つ。
キーワード	国際金融、為替レート、外国為替市場、外国為替介入
備考(管理者用)	（旧：国際経済論）02～10E・CBCC生読替

講義コード	14D6510000
講義名称	コンピュータ論Ⅰ　＜秋＞
科目英文名	Computer and Social Information Systems Ⅰ
代表ナンバリングコード	OICT2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
藤間　真

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
	ソフトウェアハウスでの実務経験を踏まえて社会とコンピュータの関係について講義を行う。		

講義・演習概要	ここ数年「人工知能」という言葉がマスコミをにぎわしていることからわかるように、今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具、色々なモノにくみこまれて制御する道具になりつつある。
	何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことを、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視座から俯瞰することで明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。
	動画資料や一読しただけでは意味が掴みにくい配布資料を用いての講義が大きな部分を占めるので、動画の視聴は単位認定の前提となろう。また、必要に応じてグループ・ディスカッションによって議論を深めることもあることも、継続的な出席が必要となる要因である。
	第1回で、講義の内容に関する重要なことを扱うので、欠席した場合の不利益はかなり大きなものとなる。受講を検討している諸君は必ず第1回に出席されたい。
	なお、最新の状況を反映させるため、一部予定を変更することがありうる。詳細は、講義中にアナウンスする。
学習（到達）目標	本講の目的は、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視座から、コンピュータに関する幅広い知識を伝授すると共に、コンピュータと協同する存在という観点を中心に深い考察のきっかけを与えることである。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	第一回はオリエンテーションと基礎知識の確認を行います。 履修する予定の人、履修するか迷っている人は、視聴することを強く推薦します。 第一回のアドレスはM-Portで提示予定ですが、わからない人は担当者までメール(m.tohma@andrew.ac.jp)で問い合わせてください。
第2回	思考と機械－チューリング・テストと行動主義
第3回	思考と機械－チューリング・テストとサールの部屋
第4回	思考と機械－フレーム問題
第5回	思考と機械－第三世代AIについて
第6回	思考と機械－中間まとめ
第7回	コンピュータの特性と人間の特性
第8回	特性を支援するコンピュータ
第9回	自己の特性に合わせたコンピュータの調整
第10回	コンピュータと情報の組織化
第11回	コンピュータによる表現－音声と画像の表現
第12回	コンピュータによる表現－文字の表現
第13回	コンピュータによる表現－文字のコード化
第14回	コンピュータによる表現－整数の内部表現
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法 （コメント）	レポート：80％ 授業への積極的な参加：20％ いくつかの課題に関して、レポートを課します。 本講義の目的の一つが、自習するには難しいことを講義形式で伝えることにありますから、レポートの内容は、講義内容を踏まえたものとなります。その意味での「授業への積極的な参加」20％です。詳細は、オリエンテーション時に説明します。
-------------------	--

参考文献	新井紀子著、『コンピュータが仕事を奪う』、日本経済新聞出版社、2010 松田卓也著、『2045年問題：コンピュータが人類を超える日』、廣済堂新書、2013 その他は、授業中に指示します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	事後学習として求める復習のための労力が他の講義に比べて多いため、事前学習（予習）は特に要求しません。 言い換えると、きちんと復習することが単位取得の前提となります。
キーワード	人工知能、コンピュータ、情報通信技術、
備考(管理者用)	（旧：コンピュータ論）02～10E・CBCC生読替

講義コード	1520230000
講義名称	国際関係論B　＜秋＞
科目英文名	International Relations B
代表ナンバリングコード	POLS2410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
松村　昌廣

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	前期で「国際関係論A」を履修したことを前提に、各論レベルで国際安全保障、国際政治経済、国際秩序の現状と課題を初歩的に考察します。「A」と同様、具体的な事例を取り上げながら、ベーシックなことから、お話しします。また、難解にならないように図やメモを使って丁寧な説明を心がけます。
学習（到達）目標	毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明也没有せん。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係論Aで履修した理論を駆使して、時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	各論　軍事的側面 1－1）安全保障
第2回	1－2）紛争
第3回	1－3）まとめ
第4回	経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発） 2－1）－（1）市場機能中心主義　（金融）
第5回	2－1）－（2）市場機能中心主義（貿易）
第6回	2－1）－（3）市場機能中心主義（開発・技術）
第7回	2－2）国家機能中心主義
第8回	2－3）資本形成中心主義
第9回	2－3）まとめ
第10回	秩序づけのための組織化側面 3－1）国際法
第11回	3－2）国際機構
第12回	3－3）国際レジーム
第13回	3－4）まとめ
第14回	4－1）冷戦後の国際構造
第15回	4－2）日本の国際行動とその将来

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
----	--

レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、受講生に、講義で扱った内容を基に持ち帰りのレポート試験（2500字～3000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上の間）を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	ポール・R・ビオティ、マーク・V・ウェッセルズ	国際関係論　－　現実主義・多元主義・グローバリズム				（絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる）
2.	ロバート・ギルピン	世界システムの政治経済学			東洋経済新報社	（絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる）

事前および事後学習の指示（事前学習　30　時間　・事後学習　30　時間）	講義に合わせて、テキストの該当部分を予習・復習で読解すること。
備考(管理者用)	（旧：国際関係論）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替☆国際関係論Aを修得した者のみ履修可能

講義コード	1586230000
講義名称	民俗学B　＜秋＞
科目英文名	Ethnology B
代表ナンバリングコード	ANTH3400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大野　啓

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	民俗学の具体的な事例研究について、いくつかのテーマを設定し、解説する。その際に、伝統的な民俗学での理解と現時点での民俗学での解釈の差などについても解説をしていく。
学習（到達）目標	1.講義中に解説した用語を理解することができる（必須） 2.講義の内容を理解して説明することができる（必須） 3.民俗学がどのような学問的特性を有しているのかを講義中のテーマから考え、説明することが出来る

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンスー民俗学とはどのような学問なのか
第2回	葬送儀礼の形式の変化
第3回	儀礼の意味・共同体からみた意味と家族からみた意味
第4回	葬送の簡略化と社会の変容
第5回	伝統的な家・多様な家の形態
第6回	近代の家制度と家
第7回	近代家族の生成と家
第8回	家の変容と社会・文化
第9回	民俗学における家研究の可能性
第10回	年中行事と社会
第11回	正月儀礼について
第12回	旧暦の正月から新暦の正月へ 1　生活の在り方と暦の意味
第13回	旧暦の正月から新暦の正月へ 2　「近代家族」と共同体の葛藤
第14回	生活文化としての正月
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法	テーマごとにレポートの提出を求める（合計3回）。それぞれに20%の成績評価の割合を配分する。したがって、 2回以上のレポートの提出が必須となる。
---------	--

(コメント)	講義後に授業内容に関する質問を行ない、それに対する解答に評価を加える。講義後の質問に対しての解答が質問実施回数の3分の2未満の者は、実質的に受講していないものとして、レポートをすべて提出したとしても、単位取得の対象外とする。
--------	--

参考文献	市川秀之／中野紀和ら著『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房 八木透編『新・民俗学を学ぶ』昭和堂
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	講義中に指示した参考文献などに目を通すこと。 また、講義内容で理解できない用語などがある場合には、『日本民俗大辞典』などで調べること。
キーワード	民俗、近代化、伝統、家族、儀礼
備考(管理者用)	(旧：民俗学) 02～17 L 生読替

講義コード	1755610000
講義名称	文字・表記論　＜秋＞
科目英文名	Japanese Writing System and Orthography
代表ナンバリングコード	LING3490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
島　千尋

	講義 実務経験のある教員による授業① 日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な事例を交えつつ講義する
-------------	--

	日本語の「文字」（ひらがな・カタカナ・漢字）およびそれにローマ字や記号を含めた「表記」（書き方）に関して、外国人の目から見た特徴や「日本語を教える」という観点から必要になる知識や技術について講義します。 将来、日本語教師として外国人学習者に日本語を教えてみたい人はもちろん、日本語のことをもっと深く知りたい人、今後社会で必ず関わることになる外国人と接する際に必要な知識を今から身につけておきたい人とする授業です。 （講義全体を通して、文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（41）日本語教育のための文字と表記　について学びます）
	日本語学習者に日本語を教える際、また周りの外国人と接する際に、日本語の「文字」および「表記」に関して必要となる以下の2つを身につける。 ①自分自身が日本語のひらがな・カタカナ・漢字およびローマ字・記号を正確に読め、また書き表せること ②日本語学習者や身近な外国人に上記を効果的に教えられること

講義・演習計画

回	内 容
第1回	（1）かな　一ひらがな①ー　～ひらがなの言葉の正確な表記～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策　（9）言語政策とことば　を含む）
第2回	（1）かな　一ひらがな②ー　～ひらがなについて知っておくべき知識～
第3回	（1）かな　一ひらがな③ー　～日本語学習者にとってのひらがなの難しさおよびひらがなの教え方～
第4回	（1）かな　一カタカナ①ー　～カタカナの言葉の正確な表記～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策　（9）言語政策とことば　を含む）
第5回	（1）かな　一カタカナ②ー　～カタカナについて知っておくべき知識～
第6回	（1）かな　一カタカナ③ー　～日本語学習者にとってのカタカナの難しさおよびカタカナの教え方～
第7回	（2）漢字　一読み方①ー　～漢字の言葉の正確な読み方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策　（9）言語政策とことば　を含む）
第8回	（2）漢字　一読み方②ー　～漢字の読み方について知っておくべき知識～
第9回	（2）漢字　一読み方③ー　～日本語学習者にとっての漢字の読み方の難しさ～
第10回	（2）漢字　一書き方①ー　～漢字の言葉の正確な書き方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策　（9）言語政策とことば　を含む）
第11回	（2）漢字　一書き方②ー　～漢字の書き方について知っておくべき知識①～
第12回	（2）漢字　一書き方③ー　～漢字の書き方について知っておくべき知識②～
第13回	（2）漢字　一書き方④ー　～日本語学習者にとっての漢字の書き方の難しさ・漢字の教え方～
第14回	（3）ローマ字 （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策　（9）言語政策とことば　を含む）
第15回	（4）文章の表記 （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策　（9）言語政策とことば　を含む）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	・出席は取りませんが、その日の授業内容に基づいて、ほぼ毎回小テストを出します。授業資料をM-Portに上げるのは小テストの提出期限後ですので、授業を聞いていないと小テストができません。授業には毎回必ず出席してください。もちろん、ただ出席しているだけで出席点が加味されるということはありません。 ・周りの人とおしゃべりをする事、断りなく途中退室することは厳禁とします。どうしても退室しなければならない場合は、講義中でも構いませんので教員の許可を取ってください。 ・「レポート」は学期中に時々課す課題（全3回（40%））と学期末に課す最終課題（40%）です。 ・「その他」はほぼ毎回課す小テスト（20%）です。 ・授業中に質問への解答のためにスマートフォンを使用してもらう場合があります。
---------------	--

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	・授業の録画と授業資料（パワーポイント）をM-Portに上げますので、それを見て復習してください。 ・自分自身や身の回りの日本語の表記の正確さについて普段から強く意識するようにしてください。 ・学内の留学生と積極的に関わり、話をして、彼らが日本語について感じていることを直接聞いてみてください。 ・外国人学習者向けの様々な日本語教科書が図書館にあるので、文字や表記に注意をしながら見てください。
キーワード	日本語、日本語教育、文字、表記、漢字、ひらがなカタカナ

【社会人の方へ】
授業中にスマートフォンでQRコードを読み込み、Googleフォームに答えを記入してもらうことが何度かありますので、桃山のアカウントにログインできるようにしておいていただけると助かります。もちろん上記を行わずに受講することも全く問題ありません。

講義コード	1A10470000
講義名称	世界の市民-科学と女性の関係を考える　＜秋＞
科目英文名	World Citizen-Women in Science
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
尾鍋　智子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本学の教育目標である世界市民とは何かを考えるにあたり、本講義では近年急速に研究が進みつつある科学と女性との関係を取り上げたい。まず問題点を確認することからはじめ、つぎにケーススタディーとして身近な日本の例から検討をはじめよう。さらに徐々に海外の例へと視点をうつし視野をひろげることが目的である。その過程で、女性と科学の関わり方について社会や文化の相違は顕著にあるのかなど、さまざまな論点を探る。社会を分析する視点として、科学と女性の関係に焦点をおき、多文化理解へのゲートウェイとする。
学習（到達）目標	社会における科学と女性の関係をより深く理解し、個々の社会の特徴をとらえ、世界市民的視野をもつことができる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	コース説明及びイントロダクション
第2回	女性科学者と母性神話
第3回	津田梅子(1864-1929)とアメリカ
第4回	保井コノ(1880-1971)
第5回	黒田ちか(1884-1968)
第6回	江戸時代の和算と女性
第7回	まとめと試験 1　（論述試験1000字）
第8回	宇宙計画とNASAと女性
第9回	NASA黒人数学者キャサリン・ジョンソン(1918-)
第10回	女性と天文学
第11回	天文学を仕事としたキャロライン・ハーシェル(1750-1848)
第12回	生物学で道を切り開いた女性生物学者・医者
第13回	先端数学で実力を発揮した天才女性たち
第14回	ポピュラーカルチャーにみられる魔女と女性科学者
第15回	まとめと試験 2　（論述試験1000字）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	2回の本格的論述試験(各1000字程度) で成績が決まるため、あらかじめ段落を適切に用いた論述の訓練をし、書き慣れておくことがのぞましい。 詳細については初回に説明するので必ず出席すること。 毎回出席が原則。5 回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15分以上の遅刻を 3 回した場合 1 回の欠席としてカウントする。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.			プリント配布			プリントを配布する

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	配布資料を授業前後に読み、予習復習をすること。（事前学習30時間 ・事後学習30時間）
キーワード	科学、ジェンダー研究
備考(管理者用)	（旧：世界市民-科学と女性の関係を考える）14～19生読替

講義コード	1C00170002
講義名称	文学 [2] -説話文学を中心に 02<秋>
科目英文名	Literature－Focusing on Folktales
代表ナンバリングコード	LANG1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
南郷 晃子

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	「説話」とは、口承（口伝え）や書承（書いて伝えられること）で伝えられた、短い話とされます。すなわち、あるモチーフや物語の構造が受け継がれていくのです。説話世界は現代にまで続く、世界認識の一部を作っています。この講義ではそのような説話の世界へと、古文を味わいながら没入しようと思います。説話を中心にしますが、神話や歌舞伎などからも関連する要素を読み込み、多様な作品に触れる場にします。基本的には少し「不思議」な物語を扱い、宗教的・文化的な背景についても学んでいきます。日本の古典文学作品を扱います。
学習（到達）目標	まずは古文の読解に馴染みを持つ。そのうえで説話についての知見を得るとともに、説話を通じて、日本の社会文化の基層について見通しを持つことができるようになる。最終的には得た知見を通じて、日本文化について構造的に捉えることができるようになることを目指す。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	記紀神話の世界：はじまりの物語
第3回	風土記の世界：出雲国風土記
第4回	日本霊異記の世界：祭祀と説話
第5回	今昔物語集：鬼と人と京都
第6回	宇治拾遺物語：昔話と説話
第7回	平家物語：語り物文芸の世界
第8回	太平記：武の物語と怪異譚
第9回	お伽草子の世界
第10回	版本のインパクトと西鶴
第11回	近世説話と怪談
第12回	近世演芸をみる：歌舞伎、浄瑠璃
第13回	古典文学と近代文学：再創作を考える
第14回	古典とアダプテーション：アニメ、ポップミュージックから
第15回	まとめとテスト

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	「その他」：小テスト1回20％、授業内コメント30％ 小テストは抜き打ちで行います。ChatGPTなど生成AIの利用はみとめません。5回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。
---------------	---

参考文献	小峯和明『説話の森　中世の天狗からイソップまで』岩波現代文庫、2001年 兵藤裕己『王権と物語』岩波現代文庫、2010 年
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	授業で配布したレジュメを使い復習をすること。また授業内で紹介する関連文献を読むこと。
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義－説話文学を中心に）02～19生読替

講義コード	1116330000
講義名称	政治学B　＜秋＞
科目英文名	Politics B
代表ナンバリングコード	POLS1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塚田　鉄也

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	世の中には、さまざまな考え方や価値観、利害を持った人がいます。そして、そうした異なる価値観や利害が併存するなかで、共通の問題に対処したり集団としての方針を決めようとするときに必要になるのが政治です。本講義では、日本をはじめとする各国の政治や国際政治において、異なる価値観や利害が実際にどのような制度や過程を通じて調整されているのかを考察していきます。
学習（到達）目標	①政治の基本的な制度や過程について理解し、説明できる ②そうした理解に基づいて現実の政治を理解し、説明できる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	政治学を学ぶ意義
第2回	政治制度
第3回	議会制度
第4回	選挙制度
第5回	政党
第6回	官僚制
第7回	利益団体
第8回	メディアと政治
第9回	地方自治
第10回	戦後の日本政治
第11回	国際政治①：国際政治の基本構造
第12回	国際政治②：安全保障
第13回	国際政治③：国際機構
第14回	国際政治④：戦後日本の国際関係
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	各回の内容について課される確認テスト（M-Portの「テスト」を利用）により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	川出良枝・谷口将紀 編	政治学（第2版）	学生独自購入	9784130322355	東京大学出版会	

参考文献	村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣、2023年）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
備考(管理者用)	（旧：政治学）02～19生読替

講義コード	14D2020000
講義名称	経済学史Ⅱ〔2〕　＜秋＞
科目英文名	History of Economic Thought Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON1460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
北田　了介

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	授業は講義形式でおこない、毎回終了前に出席確認を行う。 本講義は、17世紀以降の経済学説（重商主義、古典派経済学、マルクスの経済学、ケインズによるマクロ経済学）とその時代背景ををたどることで、現在の経済理論や経済問題を相対化するための視点を手に入れることを目指す。
学習（到達）目標	経済学説の歴史をととして「経済」の基本的な考え方を学ぶと同時に、それぞれの時代の経済学という知の形式がどのように成立したかをさぐっていく。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション 経済学および経済学史を学ぶことの意義
第2回	重商主義から重農主義へ
第3回	アダム・スミスの経済思想（1） 道徳哲学と「同感」
第4回	アダム・スミスの経済思想（2） 分業論から価値・価格論
第5回	アダム・スミスの経済思想（3） 経済発展の歴史と「重商主義」批判
第6回	マルサスの経済思想（1） 人口をめぐる公準と人口抑制のための命題
第7回	マルサスの経済思想（2） 救貧法の歴史と救貧法批判
第8回	リカードの経済思想（1） 古典派経済学における価値論の方向付け
第9回	リカードの経済思想（2） 収穫逡減法則と利潤率の低下
第10回	リカードの経済思想（3） 比較生産費説と穀物論争
第11回	J.S.ミルの経済思想 定常状態論からアソシエーション論へ
第12回	マルクスの経済思想（1） 「初期マルクス」：ヘーゲル批判から『経済学・哲学草稿』へ
第13回	マルクスの経済思想（2） 商品論と剰余価値論
第14回	マルクスの経済思想（3） 資本蓄積論

第15回	その後の展開と秋学期のまとめ 限界革命以降の新古典派経済学とケインズの登場
------	--

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	定期試験での評価は行いません。授業ごとに提出してもらったレポートの積算によって評価を行います（第1回目2点、それ以降の14回は各7点満点で採点）。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	北田了介（編著）	教養としての経済思想	大学オンライン販売	978-4-86065-119-0	萌書房	

参考文献	講義内で随時紹介する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義に際しては事前学習および事後学習が必要である。事前学習（授業ごとに2時間）では教科書を熟読するとともに、授業内で指示された参考文献に目を通しておくこと。事後学習（授業ごとに2時間）では教科書内に示されている章末問題について、正確な解答を作成することが望まれる。
備考(管理者用)	（旧：経済学史）02～10生読替

講義コード	14D4710000
講義名称	公共経済論Ⅰ　＜秋＞
科目英文名	Public Economy Ⅰ
代表ナンバリングコード	ECON2540
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
西崎　勝彦

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	市場経済では財・サービスが市場で取引され，市場を通じて財・サービスが生産・消費される．市場経済では「見えざる手」によって財・サービスが適切に配分されると考えられてきたが，市場は万能ではなく，ときに「失敗」することもある（例．規模の利益による自然独占）．また，市場は「価格メカニズム」とも呼ばれるが，価格がうまく決まらない財・サービス（例．公共財）は市場での取引が難しい．こうした市場の失敗や市場での取引が困難な財・サービスの生産・消費を分析するための学問が公共経済学である．この授業では公共経済学の基礎について説明し，市場経済における公共部門の役割について考える． この授業では，公共経済学における分析の基本となるミクロ経済学の復習も兼ねて，まずは市場の「成功」について説明する．それを踏まえて「公共財」と「外部効果」が存在する経済について説明する．説明はスライドを使った講義形式で行う（スライドは授業資料として履修者に配布する）．履修者にはいくつかの授業で課題（計算問題を含む）に取り組んでもらい，その解答を提出してもらう（授業の最初に前回の課題を解説する）．
学習（到達）目標	(1) 市場の「成功」と「失敗」を理解する． (2) 公共財の性質とその供給に関する問題を理解する． (3) 消費・生産によって生じる外部効果と，それへの対応を理解する．

講義・演習計画

回	内容
第1回	授業内容の説明および公共経済学の概説
第2回	消費者行動
第3回	生産者行動
第4回	市場と価格メカニズム
第5回	市場の均衡と効率性
第6回	厚生経済学の基本定理
第7回	市場の「失敗」
第8回	公共部門の役割
第9回	公共財の性質と「ただ乗り」問題
第10回	公共財の供給
第11回	外部効果と生産者行動
第12回	外部効果と消費者行動
第13回	共有地の悲劇
第14回	公共経済学の展開
第15回	授業内容の総括

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
----	--

レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	第2-13回の授業内で毎回課題（短答式，計算問題を含む）を出す（上記「その他」に該当）．対面授業を基本とし，授業の残り20分ほどで課題に取り組んでもらい，その解答を任意の用紙に記入して写真に収め，その写真データを授業日の翌日までにM-Port経由で提出してもらう（Wordファイルなどその他の電子媒体でも構わない）． 第13回の授業が終わった段階で，いくつかの授業に関するレポート課題を履修者に無作為に割り当て（履修者によってレポート課題が異なる場合がある），そのレポート（論述式）をM-Port経由で提出してもらう（上記「レポート」に該当）． 授業内の課題およびレポート課題の詳細については第1回の授業で説明するので，履修者は必ず確認すること（授業に出席できなかった場合は担当教員に問い合わせること）．
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	奥野信宏	公共経済学	大学オンライン販売	978-4000266970	岩波書店	本書に基づいてスライドを作成し，それを授業資料として履修者に配布する．本書で不足している部分については，参考文献をもとに適宜補足する．

参考文献	緒方隆，須賀晃一，三浦功〔編〕（2006）『公共経済学』勁草書房． 岸本哲也，入谷純〔編〕（1998）『公共経済学』八千代出版． 須賀晃一〔編〕（2014）『公共経済学講義－理論から政策へー』有斐閣． ジョセフ・E・スティグリッツ／藪下史郎〔訳〕（2003）『公共経済学』東洋経済新報社． 常木淳（2002）『公共経済学 第2版』新世社． 土居丈朗（2018）『入門公共経済学 第2版』日本評論社．
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	新聞やテレビなどで取り上げられている，日本政府や地方自治体が関係している経済ニュースに目を通すなどして，問題意識を持つことで公共経済学への理解を一層深めてもらいたい．
その他備考（担当教員用）	(1) 対面授業を予定しているが，遠隔授業（Zoomを使用予定）になった場合に備えて履修環境を整えておくこと． (2) スライドは授業の要点をまとめたものであり，内容を十分に理解するためには，配布した授業資料を参考にテキストを熟読することを勧める． (3) 授業内の課題はレポート作成の勉強を兼ねているため，それを意識して取り組んでもらいたい． (4) 「ミクロ経済学」を履修していることが望ましい（ミクロ経済学における市場分析の基本的な考え方を理解している履修生を想定している）． (5) この授業では公共経済学を初めて学ぶ履修者を想定している． (6) 授業内の課題およびレポート課題に関して困ったことがあれば，早めに担当教員に相談すること．
備考(管理者用)	（旧：公共経済論）02～10生読替（E・CBCC・J生のみ）

講義コード	14D5810000
講義名称	国際金融論〔2〕　＜秋＞
科目英文名	International Finance
代表ナンバリングコード	FINC2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
井田　大輔

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義ではまず為替レートとは何かを学び、外国為替市場の仕組みについて概観する。外国為替取引や国際収支勘定、国際通貨等の基本的な理解を深めたのち、為替レートの決定理論を学ぶ。講義の後半では、近年の国際金融を巡る諸問題について、個別にテーマを取り上げる。具体的には、ユーロに代表される通貨統合の問題、サブプライムローン問題や欧州債務危機、アジア通貨危機などである。また、最新のトピックも扱うことを予定している。
	※この授業はBYODを想定しています。基本的に、「毎回教室にノートPCを持参する」ことを推奨する科目となっている点にご留意ください。
学習（到達）目標	リーマン・ショックや欧州債務問題は、日本を含む世界各国の景気を悪化させた。日本経済を分析する上でも、世界の相互依存関係を考慮した国際金融的な視点が重要になる。本講義では、為替レート決定等の国際金融現象を、経済理論を用いて分析・理解するとともに、国際金融社会の諸問題についての理解を深めることを目的とする。本講義を通じて、様々な国際マクロ経済政策に対する判断力を養う。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション（講義内容の説明、成績評価などのガイダンス）
第2回	国際金融と私たちの暮らし
第3回	基礎概念や用語の復習：貨幣・金利・金融システム
第4回	経済活動と国際収支
第5回	外国為替市場：為替レートの役割
第6回	為替レート決定理論（短期）：金利平価説
第7回	為替レート決定理論（長期）：購買力平価説
第8回	経常収支と為替レート
第9回	為替相場制度と為替介入
第10回	国際マクロ経済政策
第11回	アジア通貨危機
第12回	サブプライム金融危機
第13回	欧州債務問題
第14回	為替レートの変動と日本経済
第15回	まとめと今後の展望について

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	5回の小レポート（小テスト）50%と期末レポート50%の計100%で成績を総合的に評価します。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	教科書は使用しません。資料を配布する予定です。					

参考文献	岩田規久男『国際金融入門』岩波新書 佐藤綾野・中田勇人『国際金融論15講』新世社 清水順子・大野早苗・松原望・川崎健太郎『徹底解説 国際金融』日本評論社 清水順子『悪い円安 良い円安 なぜ日本経済は通貨安におびえるのか』日経プレミア新書 藤井英次『国際金融論』新世社（第二版）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	詳細は講義中に指示するが、理解を深めるための予習・復習に努めること。金融論Iを履修しておくにより理解が深まるであろう。
キーワード	金融論、国際経済学、金融政策、金融システム、ミクロ経済学、マクロ経済学
備考(管理者用)	（経済学特講－国際金融論）02～10E・CBCC生読替

講義コード	15D1120000
講義名称	情報社会論[2]　＜秋＞
科目英文名	Sociology of Information
代表ナンバリングコード	0SOC3500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木島　由晶

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義では、今の私たちが当たり前のようにおこなっているスマートフォンで検索するような情報行動が、いつごろから、どのようにして当たり前になったのかを歴史的にひもといてみたい。具体的には、電話やインターネットの歴史を概観して、情報社会の来歴を探ってみたい。そうすることで、「インターネットで世の中が変わる」という紋切型ではとらえきれない、社会現象の繊細さ（そして面白さ）に気づくことができるだろう。
学習（到達）目標	時代の動きはとかく忙しく感じるけれども、世の中はそんなに急には変わっていかないのだと実感してもらうこと、まずはそれが一番である。この講義では、近視眼的な「虫の目」ではなく、状況を俯瞰する「鳥の目」で社会をとらえてもらうことを目指す。それによって、表面的な変化に左右されず、世の中の大局的な動きをつかみとる目線を獲得してもらえたらうれしい。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	情報社会のイデオロギー
第3回	コンピュータのパーソナル化
第4回	ゲームの文化と遊び方の変容
第5回	固定性から移動性へ
第6回	電話が家にやってくる
第7回	ポケットベルの不便な快適さ
第8回	スマートフォンと多機能化
第9回	コミュニケーションとは何か？
第10回	マスメディアとしてのインターネット
第11回	携帯電話と友人関係
第12回	アカウントと〈私〉の使い分け
第13回	ウェブ日記からLINEまで
第14回	個人の情報発信と出会い
第15回	まとめとふり返し

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	50%
その他	

成績評価の方法（コメント）	授業後のコメントペーパーの内容と期末レポートを組み合わせで評価する。
---------------	------------------------------------

参考文献	土橋臣吾他編 『デジタルメディアの社会学：問題を発見し、可能性を探る』（北樹出版） 辻泉他編 『メディア社会論』（有斐閣） その他、講義中に提示する。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	学んだ内容を忘れてしまう前に、その日の内容を復習することを大切にしてほしい。講義は前に学んだ内容をふまえながら進めていくので、復習することがそのまま予習につながる。
キーワード	携帯電話、ビデオゲーム、インターネット、SNS、ブログ、ソーシャルメディア、出会い、マッチングアプリ、情報発信、歴史、コミュニケーション
備考(管理者用)	（旧：情報社会論）10～18SS・10～18L生読替☆（旧：社会学特講－情報社会論）02～09SS・02～07L生読替

【社会人の方へ】
講義の性質上、現在の若者文化に寄り添った内容になる点にご留意ください。

講義コード	16D0140000
講義名称	コーポレート・ファイナンス（応用）　　＜秋＞
科目英文名	Corporate Finance (advanced)
代表ナンバリングコード	BUSA3420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
齋藤　巡友

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要な不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な使途および配分を決定することである。コーポレート・ファイナンスでは、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達の段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資の段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分（利益還元）の段階である。本講義では、コーポレート・ファイナンスの基礎的な知識を前提とした上で、これらの財務的意思決定に関して現実の企業が直面している問題の本質を理解するのに役立つ概念や理論について学ぶ。
学習（到達）目標	コーポレート・ファイナンスに関する諸問題を理解するために必要な知識・概念、理論を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの習熟が本講義の学習目標となる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション：授業内容や授業方針、成績評価について。
第2回	投資の意思決定1：投資の評価手法
第3回	投資の意思決定2：キャッシュフローの算出
第4回	株式による資金調達
第5回	負債による資金調達
第6回	資本構成の理論1：MMの無関連命題
第7回	資本構成の理論2：トレードオフ理論、ベッキング・オーダー理論
第8回	日本企業の資本構成
第9回	利益還元政策1：利益還元的手段（配当と自社株買い）
第10回	利益還元政策2：利益還元政策の代表的な理論・仮説
第11回	コーポレート・ガバナンス1：エージェンシー問題とは、2つのタイプのエージェンシー問題
第12回	コーポレート・ガバナンス2：コーポレート・ガバナンスの仕組み
第13回	デリバティブと企業のリスクマネジメント
第14回	M&A（企業合併・企業買収）について
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	

その他	30%
-----	-----

成績評価の方法 (コメント)	①到達目標に対応する試験を期末に実施する。試験では、基礎的な知識や概念の理解度とそれらをどの程度応用できるかを確認するための問題を出題する。問題は短答式・記述式（計算問題を含む）を組み合わせた形式となる。成績評価における点数配分は70％ ②授業の理解度を問う小課題を複数回実施する。成績評価における点数配分は30％
-------------------	---

参考文献	砂川伸幸著『コーポレートファイナンス入門〈第2版〉』日本経済新聞社 高橋文郎・井出正介著『経営財務入門 第4版』日本経済新聞出版社 米澤康博・小西大・芹田敏夫著『新しい企業金融』有斐閣アルマ リチャード＝ブリーリー・スチュワート＝マイヤーズ・フランクリン＝アレン著 『コーポレートファイナンス 第10版 上』日経BP社 『コーポレートファイナンス 第10版 下』日経BP社 ジョナサン＝パーク・ピーター＝ディマーズ著 『コーポレートファイナンス入門編第2版』丸善出版株式会社 『コーポレートファイナンス応用編第2版』丸善出版株式会社 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子『経営戦略とコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	講義前に講義資料をアップロードするので、準備学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスアワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。
その他備考（担当教員用）	第1回の授業時に受講するうえで重要な情報（授業運営の方針、成績評価等）を説明するため、初回授業への参加を本講義の履修の前提とする。やむを得ない事情により出席できない場合や遅刻する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。 ※第1回目の授業に無断で欠席または遅刻した場合、本講義の履修を認めないこともある。
キーワード	株式、負債、最適資本構成、ペイアウト、投資評価、コーポレート・ガバナンス、デリバティブ、M&A
備考(管理者用)	（旧：経営財務論）02～07生読替☆（旧：経営財務論（応用））08～20生読替